

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	千葉大学
整理番号	B01
構想名	グローバル千葉大学の新生 －Rising Chiba University－

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「グローバル千葉大学の新生」を題目に掲げ、「4つの改革」、「3つの力の育成」、「4つの独自目標」を軸に、国際教養学部を設置をはじめとする全学的なガバナンス改革や、学修制度の改革を進めており、多岐に渡るハードルの高い構想にも関わらず、着実な取組を実施している。国際教養学部を全学における教育改革のパイロット的な学部として位置付け、基本的に全ての授業をアクティブ・ラーニングとし、多様な履修形態の実践が進められている。同時に、副専攻の活用や特進プログラムの開始等により、複数の学部でグローバル人材育成の取組が行われている。「国際日本学」の全学生への必修化は、全学展開への一歩として評価出来る。</p> <p>学長の直下に設置された「国際未来教育基幹」によるガバナンス改革とその実行組織である全学教育センターによって、学修制度改革とプログラム改革が進められている。飛び入学の拡大、6ターム制の実現など、多様なアカデミック・パスが用意され、TOEFL等の外部試験による一般入試を国立大学で最初に導入した点も評価に値する。大学院においてはダブル・メジャーの制度化を目指してプログラム改革が進展しているが、教育の質保証との関連で十分な検討が望まれる。</p> <p>構想を実現する新たな仕組みと人材の確保に関して、SULA (Super University Learning Administrator) による大学の国際化に向けた个性的かつ新しい学生教育支援システムは、国立大学として先駆的な役割に挑む姿勢として評価出来、今後の構想の全学展開にあたっての効果が期待される。</p> <p>外国人教員等の採用については、戦略に応じて着実に実施されているが、外国の大学で学位を取得した日本人職員については数値目標に達していない。教職協働が重要になってきている現状において、専任職員の活用についても、海外への研修制度等の充実や語学能力の一層の向上を期待したい。</p> <p>学生の語学力の向上が今後の課題であり、高い数値目標を達成するための様々な工夫が必要である。全学語学力向上委員会を立ち上げ、英語科目の卒業要件単位数の増加や英語カリキュラムの体系化等に着手しているが、担当教員の増員や研修の実施等による全学的なレベルの向上が望まれる。</p> <p>日本人学生向けと同内容の情報が得られる英語版ウェブサイトが予定どおり公開されたことは評価出来る。IR分析結果の公表を含め、今後の更なる情報公開への取組を期待する。</p>	